

静かな銘溪で大満足

## 南会津 保太橋沢～ミチギノ沢～ 御神楽沢

夏休みの南会津道遙旅を計画。2014 夏休みリベンジで 2014 秋の中門沢左岸から右岸を広げようとしたが、保太橋沢がアプローチとしては楽しすぎたこともあり、ちょっとしたトラブルから銘溪の御神楽沢を遡行することとなった。いつもの道遙沢旅とはいかず、本流域遡下降となり十二分に堪能できる沢周遊となりました。

8月6日（土）：晴れ

保太橋沢沿いの別荘の方に「危ない沢だよ、だいじょうぶ」とのお言葉をいただき、別荘脇を通り入溪。黒檜沢と似た感じの花崗岩に水が映えるきれいな沢のはじまり。せばまったゴルジュ帯も



水量が少ないので、とことこと歩いて、落ち口CS滝はちょっと難儀を繰り返す。よいしょの一步ができないわたしはザックをあげてもらい、なんとか這い上がる。ここでザックが水没。沢人生ではじめてお札をはじめとした、シュラフカバー、携帯などがヌレヌレに。第2ゴルジュの出口、3段の滝も見応えがあり、2段目でビレイしていたヌレヌレになった身体が急速冷凍マグロの気持ちになった。

標高が顕著にあがらなくゴーロとなる。1291の二俣からは、素直に左俣に入り、近づきそうでなかなかつかないということが絵に描いたようなツメだった。薄い藪でさくつといくはずが、1816を北側に回り込んで迷走。地形図の登山道の位置が違うとおもっただが、三岩に向かって登山道と平行に進んでいる

感が強く、焦る。窓明山との鞍部の湿原から下ればいいので、薄い藪を鞍部目標に切り替えたら、登山道にひょっこり出た。らくちん登山道で爽やかな空気をすってのんびりしたいのだが、時間もないので、湿原の薄くなった藪がわかんないので、下降を始める。記憶があるようなないような藪っぽい沢床がでてきたので、急ぎ下り、1500過ぎてゼロメートル地帯だが、逃げ道のある平瀬に落ち着く。ふたりなのでどこでもBC。暗くなる前に早送りに準備をして、焚火の前では、明日の行動をどうするか思い悩みながら満点の星の下、就寝。

8月7日（日）：晴れ

【日程】

2016年8月6日（土）～  
8月8日（月）

【メンバー】

田辺（L）、田宮（RSSA）

【グレード】3級

【地形図】

高幽山、会津駒ヶ岳、檜枝岐、  
内川

【記】田辺



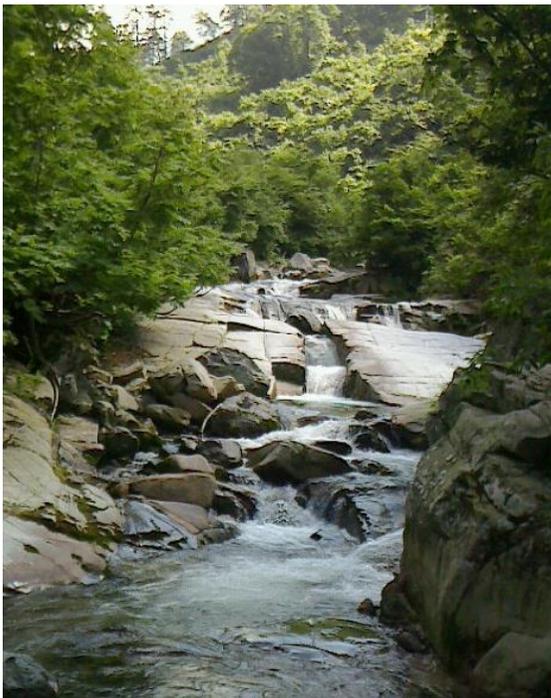


ちらほらと現れる。

御神楽沢にはいと光が差し込み見事な美しさ。15年の時がすぎ、足元がフェルトからゴム底へと変わり、よーく滑る。スケールも大らかになり、じっと身を委ねると、ここに足置いてねと沢が教えてくれる。右岸の柱状摂理といい、見所満載。ただし、1100で支沢に入る予定が田宮はスルーしトコトコと行ってしまった。オーイここだよ。って叫んでも聞こえない風。へんてこな藪尾根をうねうねいく計画に嫌気がさしたのか、裏切り者。南会津を代表する溪谷をアペリティフに藪沢かもしれない支沢から中門へ入るのが予定のルート。初日の薄い藪で失態したわれらが再度平らな藪尾根に突っ込むと明日中には下山できんな。と美し



住めば都な BC をあとに下って行くと、すばらしい予定地 1300 あたりのブナ森の台地が現れる。GW に BC にして釣りをしたところは 1202。ここの様相はわたしのブナ森の原風景となっている。ここで腹ごしらえをして、先を急ぐ。御神楽沢に出合ゴルジュはトラロープで下降した 15 年前。右岸の踏み跡を辿りルンゼ手前で下りた田宮は行き詰まり、懸垂下降。釜で泳いでカメラ水没。チーン。これ以上の水没はいやだったので、釜をへつったら、その先にトラロープがあった。標高が下がると袖ヶ沢名物のアブが



いキラキラと輝く沢床に腰掛け協議の結果、本流溯行とした。

夏の日ざしをまとった深い森に囲まれた光った岩畳に、カワガラスが遊んでいる。こちらに気づき、岩すれすれに下流へと飛んでいく。美しく、映画のワンシーンのように感じられる。以前は朝早かったので、ここまで光がはいっていなかったこともあり、ことさら美しい。ただ、災害の影響で岩畳の間に岩がはさまっているときいていたが、それがはずれて下部にごろっと置かれていた。よく見ると、ごろごろと岩がころがり、上部が山抜けしており、昨年の水害の影響か。そして、2段滝、ナメが続き、ゴルジュから滝へと、飽きさせない。核心の滝が奥に見え、右岸側は簡単そうだが、渡れないので、右壁沿いにギリギリまで進み、やや被っている岩を田宮が空身でザイルをひく。ハーケンと残置があった。ワンポイント荷あげをして、スパイクを履き草つきのトラバースにそなえるが、踏み跡がしっかりしていて拍子抜け。

標高をあげるとヌレヌレ装備は寒くなるのでほどほどのところで幕。昨日のゼロメートル地帯に

比べればどこでも幕場にみえてくる。タンパク質を補給して、明日に備えよう。

8月8日(月) : 晴

天気が持てばいいのだが、高層雲の湿度はあきらかに増えている。朝のすがすがしさとナメ滝でほっこり度があがりそうになると、滝がいい感じにでてきて、さすがに銘溪かな。10mCSは右岸の沢から越えて踏み跡が続く。ムジナクボ沢が合わさり春に遊んだ斜面が見えはじめる。順調に進んでいるので、苔むしてぬめった稲妻状滝をジグザグと慎重に登り、高度を上げる。狭いゴルジュCS滝を右から巻いたら、明るく開けた沢。稜線も近づき水線山越えをして登山口まで。水が涸れる事なく。薄い藪をこえたら、人の声が出て湿原から登山道に出た。2時間の下山タイム。疲れた足が前に出ず「ここはああ、小屋前ゲレンデかな」、などと積雪期を思い出しながらのんびりと下っていたら、終バスに間に合わず。登山口前の民宿にタクシー会社の電話番号を聞き込みに行ったら、宿のご主人が小豆温泉まで送迎してくれるというご厚意に甘えてしまった。ああ、またまた檜枝岐を好きになったしまった。いつもの隧の湯につかり、暗くなった檜枝岐村を後にし、西那須野塩原までゲリラ豪雨にあった。山にいたらと思うと、早めの判断が吉。満足な夏休み第一弾終了。

【行程】 8/6 小豆温泉駐車場 (7:20) ~ 保太橋 (7:50) から保太橋沢~稜線 (17:20) 登山道 ミチギノ沢下降 1440 (18:30) BC1  
8/7 BC1 (7:00) ミチギノ沢下降 (9:00) 1202~二俣 (11:50) ~ 御神楽沢出合 (1330) ~ 岩畳 (14:20) ~ 1230 (16:00) BC2  
8/8 BC2 (5:40) ~ ムジナクボ沢出合 (10:30) ~ 稲妻状の滝 (11:00) ~ 会津駒ヶ岳 (14:45) ~ 滝沢登山口 (17:30)

